

地域包括ケアシステムの構築は

高松 幸雄議員



包括的に協力体制が必要と考える
市長



▲川崎市地域包括ケアシステムポータルサイトより
自助・互助・共助・公助について

問 地域包括ケアシステムとは、高齢者が住み慣れた地域、家で最期まで自分らしい暮らしを続けるための制度で、住まいを中心として医療、介護、生活支援、介護予防が連携していくことである。

また、地域包括ケアシステムがうまく機能するためには、自助・互助・共助・公助の「4つの助」の連携が不可欠になる。

地域包括システムの構築の要は、地域包括支援

センターが着実に医療と介護の連携や切れ目のないサービスを構築しているかどうかが鍵となる。

地域包括支援センターが果たす役割とは。

答 地域住民の心身の健康の維持、生活安定のために必要な援助を行うことにより、地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援するため、相談を受け付け、支援を行い、必要なサービスにつなぐことや、高齢者

の虐待防止などの権利擁護業務等を行い、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように支援を行うことだ。

問 地域ケア会議は、役所の職員はじめ、ケアマネジャー、介護サービス提供事業者、医療機関や社会福祉協議会の関係者、町内会やボランティア団体の代表ほか民生委員などが参加し、意見を述べることで地域に住む高齢者が直面している課題が明確にされている。

民生委員と高齢福祉課と地域包括支援センターの関わり方は。

答 民生委員には地域の住民に、支援が必要な場合や生活に不安があるような高齢者がいた場合、高齢福祉課または担当地区の地域包括支援センターへ相談、連絡をしてもらっている。それぞれ連携をし、支援が必要な高齢

者へ対応をしている。

問 地域包括ケアシステム構築について、市長の考えは。

答 地域包括事業については、自ら暮らし地域で自らの最期まで暮らし続けるために必要なシステムを構築していくことで、医療、介護、予防、住まい、生活支援が包括的に協力体制を取っていかなければならないと考え

る。